

病理病態検査学演習Ⅱ (Graduate Seminar of Pathological AnalysisⅡ)

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
澤田浩秀、山口央輝	1年次後期	選択	2	45	演習	あり	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対するフィードバック方法	病理病態検査学演習Ⅱでは、パーキンソン病モデルマウスの運動解析から、その組織標本を用いた実践的な病理形態学的解析、生化学的および免疫学的解析 (ELISA、RT-PCR等) について学修する。また、認知症患者に対して実践する心理検査を経験するとともに、実際に認知症カフェなどに参加し、認知症患者と関わることによってコミュニケーションを体験する。 *実務経験を持つ教員が授業を進める。 課題に対するフィードバック方法/レポートに対して討論するほかコメントをつけて返却する。							
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「健康に対する社会的ニーズを認識するとともに、グローバルな視野を持ち、科学的根拠に基づき、自ら考え、判断し、課題解決に向けて対応することができる。」及び④「臨床検査技師の役割を探究し、臨床検査学分野の高度な実践者、教育者及び研究者として社会に対して責任を果たし、貢献できる。」の達成に寄与している。							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	1. パーキンソン病モデルマウスの運動解析、病理組織学的解析、および生化学・免疫学的解析が実施できる。 2. 認知症心理検査および認知症患者とのコミュニケーションが実施できる。							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	第1回～第24回事前学習：動物の病理組織解析法、運動解析法、ELISA、RT-PCRなどの解析法について熟知しておくこと。認知症心理検査法についても熟知しておく (各30分) 第1回～第24回事後学習：講義内容で不明な点は、講義終了直後もしくはオフィスアワーを利用して質問するなどして明確にするよう努める/復習のための課題を課すことがある (各30分) ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間 (2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回) (1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回) (1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回) を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。							
授業計画	第1回	パーキンソン病マウスを用いた運動解析1					澤田浩秀	
	第2回	パーキンソン病マウスを用いた運動解析2					澤田浩秀	
	第3回	パーキンソン病マウスの病理組織標本の作製 (固定、包埋、薄切) 1					澤田浩秀	
	第4回	パーキンソン病マウスの病理組織標本の作製 (固定、包埋、薄切) 2					澤田浩秀	
	第5回	パーキンソン病マウス組織標本を用いた免疫組織化学 (酵素抗体法) 2					澤田浩秀	
	第6回	パーキンソン病マウス組織標本を用いた免疫組織化学 (酵素抗体法) 3					澤田浩秀	
	第7回	パーキンソン病マウス組織標本を用いた免疫組織化学 (蛍光抗体法) 1					澤田浩秀	
	第8回	パーキンソン病マウス組織標本を用いた免疫組織化学 (蛍光抗体法) 2					澤田浩秀	
	第9回	パーキンソン病マウス組織標本を用いた画像解析1					澤田浩秀	
	第10回	パーキンソン病マウス組織標本を用いた画像解析2					澤田浩秀	
	第11回	パーキンソン病マウス組織を用いた生化学的解析1					澤田浩秀	
	第12回	パーキンソン病マウス組織を用いた生化学的解析2					澤田浩秀	
	第13回	パーキンソン病マウス組織を用いた免疫学的解析1					澤田浩秀	
	第14回	パーキンソン病マウス組織を用いた免疫学的解析2					澤田浩秀	
	第15回	認知症心理検査1 (MMSE、HDS-R) 1					山口央輝	
	第16回	認知症心理検査1 (MMSE、HDS-R) 2					山口央輝	
	第17回	認知症心理検査2 (MoCA-J、CDT) 1					山口央輝	
	第18回	認知症心理検査2 (MoCA-J、CDT) 2					山口央輝	
	第19回	認知症心理検査3 (ADAS、CDR) 1					山口央輝	
	第20回	認知症心理検査3 (ADAS、CDR) 2					山口央輝	
	第21回	認知症患者とのコミュニケーション1					澤田浩秀	
	第22回	認知症患者とのコミュニケーション2					澤田浩秀	
	第23回	認知症患者とのコミュニケーション3					澤田浩秀	
	第24回	まとめのディスカッション					澤田浩秀	
評価方法 評価基準	レポートで評価する (100%)							
教科書	特に定めない			参考書等		必要に応じて教員が配布する。		
学生へのメッセージ	認知症はこれからの社会において避けては通れません。在宅医療を考える上での知識として重要です。 演習では、怪我をしないよう十分注意して行うこと。マウスの運動解析、認知症患者とのコミュニケーションが実践できない場合は、代替手技を実施する。							